

国際シンポジウム 上智大学におけるグローバル教育

ソフィア・イニシアティブの現状と展望

2月22日、上智大学が、2号館17階の国際会
ローバル教育センターが
議場で開催された。来賓
主催する国際シンポジウ
ム「上智大学におけるグ
ローバル教育・ソフィア
・イニシアティブ(SI
ED)の現状と展望」

が、2号館17階の国際会
ローバル教育センターが
議場で開催された。来賓
主催する国際シンポジウ
ム「上智大学におけるグ
ローバル教育・ソフィア
・イニシアティブ(SI
ED)の現状と展望」



上智大学 グローバル教育センター主催 国際シンポジウム
上智大学におけるグローバル教育
ソフィア・イニシアティブ(SIED)の現状と展望

成果を発表する学生たち

ともに、今後の展望

した。

アなどの実践的なプログ

実践型プログラム

アフリカに学ぶ

ベナン共和国でのプログラムに学生14人が参加



現地学生との交流の様子



WFP現地オフィスでの研修

学生が海外で体験できる
学びの機会を多く用意し
ている。特に2012年
度から開始した「実践型
プログラム」では、国際
協力、地域貢献などの特
色あるテーマに沿った学
びを通じ、グローバル人
材としての力を養成する
ことを目的とした本学な
らではの魅力的なプログ
ラムが多く、本年度は1
00人も学生が参加し
た。教職員の引率もあ
り、個人ではなかなか渡
航が難しい地域の現状に
深く触れ、新しい気づき
を得る貴重な機会とな
る。在校生にはぜひ参加
を勧めたい。ここでは2
月にベナン共和国で実施
した「アフリカに学ぶ」
を紹介する。

「アフリカに
学ぶ」は現地の
協定大学での講
義、国際機関で
の研修、現地企
業や文化施設の
視察等を組み合
わせたプログラ
ムである。参加
者はアフリカの
歴史と現状につ
いての理解を深
めながら、新たな表現様
式や思考形式や価値観に
触れ、プログラムを通し
て今後のアフリカ諸国と
日本との関係について考
えていくことが期待され
る。今年度は14人がベナ
ン共和国でのプログラム
に参加。アボメカラヴィ
大学にて歴史、政治経
済、人類学といった講義
を受け、WFPやJICA
Aの現地プロジェクトサ
イト訪問、本学卒業生で
もあるゾマホン前駐日大
使が代表を務める日本語
学校での交流などを行っ
た。日本においても、ア
フリカ地域について座学
で学ぶ機会、あるいはメ

冬の短期プログラム

23カ国から60人の留学生が受講



太平洋・カリブ地域の
留学生も参加

「January Session
Japanese Studies」を
開講し、23カ国60人
の留学生が受講し
た。留学生の中に
は、昨年度に続き、
太平洋・カリブ地域
からの留学生16人も
含まれている。今年
度の開講科目は「初
級日本語」のほか、
英語で行われる「日
本のビジネスと経
済」「メディアと時
事問題」「日本の教
育」の計4科目。留学生

は、教室でのこれらの講
義に加え、学外でのE
P Tripにも参加。小学
校での給食体験やJICA
A訪問、芝浦食肉加工場
見学など、日本を体験す
る貴重な機会を得た。ま
た、期間中には本学学生
とプログラム受講生の異
文化交流を目的とした
「Language Exchange」
により、オーダーメイド
で企画されており、学生
も行われた。企画・運営

と協調する場面において
も、乗り越えるための自
信と経験を積むことが出
来た」等の発表があり、
換が行われた。

を本学学生が行い、書道
や折り紙などの日本の文
化を紹介しながら海外か
らの学生と触れ合った。
このほかにも、グロー
バル教育センターでは1
月と2月に中国からの留
学生向けプログラムとし
て「復旦大学看護・福祉
領域プログラム」「地球
環境プログラム」のほ
か、現代日本について学
びながら東京滞在を満喫
するプログラム「Stay I
n Tokyo」Part1, Part2
を開講。合計178人の
学生を受け入れた。これ
らのプログラムは本学の
中国事務所を運営する株
式会社GES(日中文化
交流センター)との協働
により、オーダーメイド
で企画されており、学生
も行われた。企画・運営

第3回 国連集中研修

国連の役割と機能

学生31人が参加



国連本部での集合写真

2月11日から19日ま
で、ニューヨークの国連

本部にて国連集中研修
ム。
初日は高須幸雄国連事
務次長から「国連職員を
目指すための心構え」な
ど、長年の経験に基づく
講義を受講。2日目以降
も事務総長室、事務局、
PKO局、経済社会局な
どさまざまな分野で活躍
する国連職員から、各組
織の概要や現在取り組ん
でいる問題などを学
んだ。

参加した根岸重
さん(文独4)は「国
連職員の方々から貴
重な話を聞くこと
で、これまで詳しく
知らなかった分野に
も興味をもつことが
できました」と話し
ている。

理工学部同窓会連携講座「つくる日」

実践力となる課題解決スキルを習得



グループごとに行われた
プレゼンテーション

今年度秋学期に高学年
向けの教養科目として、
全学共通科目「つくる日」
が開講された(コーディネ
ーター・理工学部機能
創造理工学科の坂本治久
教授、同・竹原昭一郎准
教授)。

この授業は、理
工学部同窓会(会長
池尾茂上智学院理
事)との連携講座
で、「ソフィア経済
人倶楽部」(経済
界、実業界で活躍す
る同窓生同士のネッ
トワーク)の多大な
協力も得て実現し
た。協力企業各社と
調整し、ビジネスの
第一線で活躍する本
学卒業生がファシリ
ターから各チームに課
題が提示され、学生はこ
れらを解決する企画を作
成する。その過程で必要
とされる各人の能力とは
何か、何が浮かび上がる。知

識、汎用的スキル、取り
組む態度を統合的かつ実
践的に展開していく学習
メソッドである。他者と
協調しながら学ぶ方法や
考え方を身につけ、学習
プロセスに主体的・能動
的に関わろうとする態度
を習得することができる。
協力企業は、株式会社
WOWOWコミュニケーションズ、株式会
社JX日鉱日石エネ
ル、株式会社、ノバルテ
イスファーマ株式会
社だ。

1月23日の授業では、
グループ発表および講評
が行われた。JX日鉱日
石エネルギー株式会
社が
この講座は来年度にも
開講される。